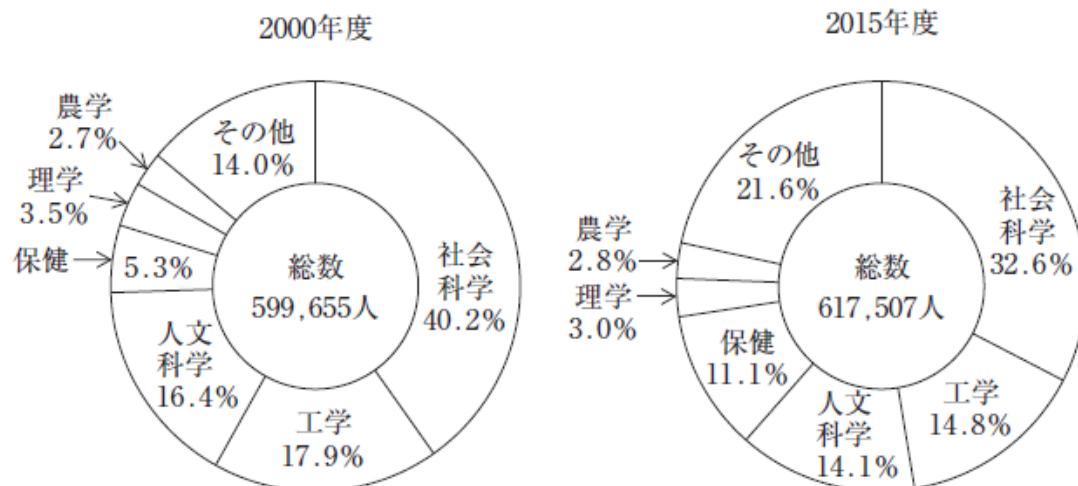


【問題A】 次の円グラフは、大学入学者数及びその学科別構成比の推移である。問1及び問2について適切なものはどれか【30年特別区 24】



【問1】

- 2000年度の工学の大学入学者数を100としたときの2015年度のその指数は、90を上回っている。
- 2015年度における理学の大学入学者数に対する社会科学の大学入学者数の比率は、2000年度におけるそれを上回っている。
- 保健の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の増加数は、農学の大学入学者数のその35倍を上回っている。
- 社会科学の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の減少率は、人文科学の大学入学者数のそれより大きい。
- 2015年度の社会科学の大学入学者数は、2000年度のその0.9倍を上回っている。

【問2】

- 保健の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の増加数は、農学の大学入学者数のその35倍を上回っている。
- 2015年度の社会科学の大学入学者数は、2000年度のその0.9倍を上回っている。
- 2000年度の工学の大学入学者数を100としたときの2015年度のその指数は、90を上回っている。
- 社会科学の大学入学者数の2000年度に対する2015年度の減少率は、人文科学の大学入学者数のそれより小さい。
- 2015年度における理学の大学入学者数に対する社会科学の大学入学者数の比率は、2000年度におけるそれを下回っている。

【問題B】 次の表は、世界の米生産量の推移を示したものである。問3及び問4についてこの表から確実に言えることとして最も妥当なものはどれか。

世界の米生産量（モミ量）（単位：千t）【30年裁判所】

	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年
中 国	195,761	201,001	204,236	203,612	206,507
イ ン ド	143,963	157,900	157,800	159,200	157,200
インドネシア	66,469	65,757	69,056	71,280	70,846
バングラデシュ	50,061	50,627	50,497	51,534	52,326
ベ ト ナ ム	40,006	42,398	43,738	44,040	44,974
タ イ	34,409	36,128	38,000	36,762	32,620
ミ ャ ン マ ー	32,580	29,010	26,217	26,372	26,423
フ ィ リ ピ ン	15,772	16,684	18,032	18,439	18,968
世 界 計	701,228	722,719	733,013	739,120	741,478

※中国には、香港、マカオ及び台湾を含まない。
 (公益財団法人矢野恒太記念会『日本国勢図会 2015/16年』,
 『日本国勢図会 2017/18年』より作成)

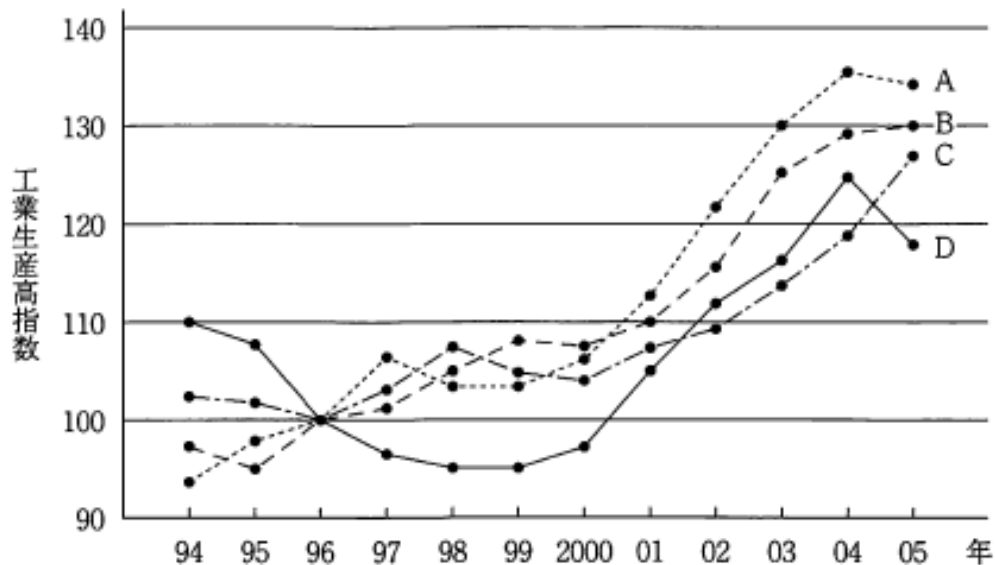
【問3】

- 2010年から2014年までのいずれの年においても、中国の米生産量は世界計の25%未満である。
- 表に示した8か国のうちで、2010年に対する2014年の米生産量増加率が最も大きいのはインドである。
- 表に示した8か国のうちで、2012年における米生産量の対前年増加率が最も大きいのはインドネシアである。
- 2010年から2014年にかけて、ベトナムにおける年平均米生産量は、43,000千tを超えている。
- 2010年から2014年までのいずれの年においても、バングラデシュの米生産量はフィリピンの米生産量の3倍未満である。

【問4】

- 8か国のうちで、2012年における米生産量の対前年増加率が最も大きいのはフィリピンである。
- 2010年から2014年までのいずれの年においても、バングラデシュの米生産量はフィリピンの米生産量の3倍未満である。
- 2010年から2014年までのいずれの年においても、中国の米生産量は世界計の25%未満である。
- 8か国のうちで、2010年に対する2014年の米生産量増加率が最も大きいのはインドである。
- 2010年から2014年にかけて、ベトナムにおける年平均米生産量は、44,000千tを超えている。

【問題C】 図は、A～D4か国の工業生産高の推移を、1996年を100とした指数で示したものである。問5～問7について、この図から確実に言えることとして最も妥当なものはどれか。【p512_Q13*】



【問5】

- 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。
- 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 2004年の対前年増加率が最大である国はD国である。
- 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のその1.3倍より少ない。
- 1996年の4カ国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。

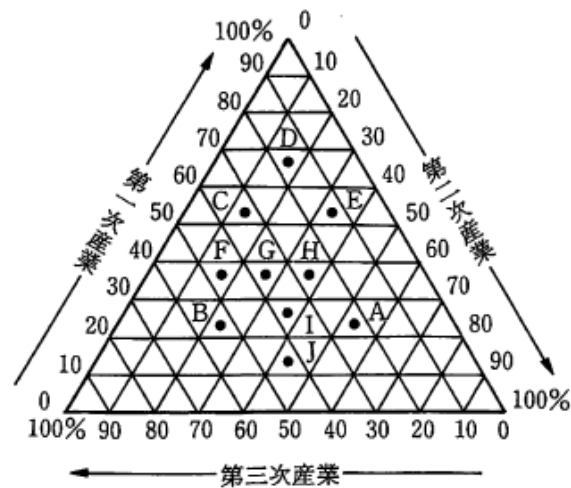
【問6】

- 2004年の対前年増加率が最大である国はA国である。
- 1996年のC国とD国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。
- 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のその1.3倍より少ない。
- 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。

【問7】

- 2005年の4カ国の生産高の合計は1996年のその1.3倍より少ない。
- 1996年の4カ国の生産高の合計は1994年のそれより少ない。
- 1994年の生産高は4カ国中、D国が最大であったが、2005年はD国が最小である。
- 2001年以降、4カ国中、A国の生産高が常に最も多い。
- 2004年の対前年増加率が最大である国はD国である。

【問題D】 図は、A～J 10 か国の産業別就業人口比率を示したものである。問 8～問 9 についてこの図からいえることとして正しいのはどれか。【p516_Q17*】



【問 8】

- 1 第一次産業就業者比率が 50%以下の国は 3 カ国である。
- 2 第二次産業就業者比率が 40%以上の国は 1 カ国である。
- 3 第三次産業就業者比率が 30%以下の国は 5 カ国である。
- 4 A 国における第一次産業就業者数と第三次産業就業者数は、ほぼ等しい。
- 5 B 国の第三次産業就業者数と C 国の第一次産業就業者数は、ほぼ等しい。

【問 9】

- 1 B 国の第三次産業就業者の比率と C 国の第一次産業就業者の比率は、ほぼ等しい。
- 2 A 国における第一次産業就業者数と第二次産業就業者数は、ほぼ等しい。
- 3 第一次産業就業者比率が 30%以下の国は 6 カ国である。
- 4 第三次産業就業者比率が 60%以下の国は 2 カ国である。
- 5 第二次産業就業者比率が 40%以下の国は 5 カ国である。

【問題 E】

【問 10】 次の①～③の計算の判断が適切なものはどれか。

- ① $\frac{1949}{2018}$ と $\frac{1951}{2020}$ と比べると、 $\frac{1951}{2020}$ の方が大きい。
 - ② $\frac{1176}{3139}$ と $\frac{1284}{3472}$ と比べると、 $\frac{1284}{3472}$ の方が大きい。
 - ③ 定価 1 万円の商品を購入するとき、1 割引で買う場合と、ポイント 18%付きの定価で買う場合とでは、後者の方が安くて得である。ただし消費税は考慮しない
- 1 ①から③のすべてが正しい。
 - 2 ①は正しいが②, ③は間違い。
 - 3 ①, ③は正しいが②は間違い。
 - 4 ②, ③は正しいが①は間違い。
 - 5 ②は正しいが①, ③は間違い。